

# 日本体育大学大学院

## 令和 8 年度入学者選抜【出題の意図】

|        |               |
|--------|---------------|
| 研究科・課程 | 保健医療学研究科・博士課程 |
| コース    | 運動器柔道整復学専攻    |
| 実施期    | Ⅱ期試験          |
| 試験科目   | 筆記試験（英語）      |

### 【出題の意図】

本問題は、小児・思春期の足関節外傷における診断精度の向上を題材とした英文和訳問題である。柔道整復師の臨床現場で最も頻繁に遭遇する足関節捻挫において、特に小児では腓骨下端の剥離骨折を合併することが多い。柔道整復師はレントゲンなどの画像診断ができないため、触診や理学検査により剥離骨折が隠れている可能性を見極めることが非常に重要である。本研究は、MRI 検査の普及により従来見逃されがちであった ATFL 損傷や骨軟骨剥離の高い検出率が明らかになったことを示しており、柔道整復師の専門領域である保存療法の適応拡大が科学的に裏付けられている。受験者には、系統的レビューを正確に翻訳し、小児特有の解剖学的特性や画像診断の進歩を理解した上で、適切な医師紹介の判断や患者・家族への説明において活用できる能力を求める。これにより、博士課程で必要な専門知識、研究リテラシー、根拠に基づく実践能力を包括的に評価することを目的としている。